

府民環境・厚生常任委員会 管内調査  
令和5年1月16日（月）

1 京都府男女共同参画センター（らら京都）（京都市南区）

【調査事項】

コロナ禍における女性への支援について

【調査目的】

新型コロナウイルス感染症により、女性の雇用情勢や貧困の深刻化、学校等の休校や介護施設のサービス停止などによる家事・育児・介護の負担の増加など、日本社会のこれまでであった課題が可視化されたといわれていることから、コロナ禍における女性への支援について調査する。

【調査内容】

令和4年4月の京都ウィメンズベースの移転により、京都府男女共同参画センター、マザーズジョブカフェ、京都ウィメンズベースの3所が京都テルサへ集結し、ワンストップ拠点化することで、女性活躍支援の連携を強化し、この3所の特徴を活かし、連携を取りながら女性への支援を行っている。また、コロナ禍において、様々な困難・課題を抱える女性への支援を強化するため、「女性つながりサポート事業」において、京都府男女共同参画センターの体制強化及び民間団体の専門性を活用した無料カウンセリング等を実施している。

京都府男女共同参画センターの相談事業では、コロナ禍において、感染症に対する不安や人との交流が制限されることによる疎外感を背景とした相談のほか、第6波及び第7波では、感染症に直接関連する相談が急増した。第8波でも直接的な不安感は薄らいだ感じがあるが、この間の不安や交流の制限が根強く影響しているとのことであった。

また、女性つながりサポート事業を受託する葵橋ファミリー・クリニックにおいては、電話相談の利用は府北部在住の方が多く、京都市内在住の方の相談は対面がほとんどである。そもそも、家庭の相談は女性が圧倒的に多く、また、カウンセリングは複数回にわたり、経済的な負担も少なくないことから、現場としても女性を支える本事業は非常に有効であると考えており、コロナ禍の事業であるが、継続して実施され、一人でも多くの方が心穏やかに過ごせる社会ができればと感じているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・ 地域特性に応じた就労相談の対応について
- ・ 相談者の相談後の状況について
- ・ 電話相談後も継続的な支援が必要な方への対応について
- ・ コロナ禍において女性の生きづらさが表面化した要因について など



調査事項を聴取



施設を視察

## 2 京都動物愛護センター（京都市南区）

### 【調査事項】

府市協調による動物愛護事業の取組について

### 【調査目的】

動物を取り巻く環境については、地域のボランティア団体による譲渡会や猫と地域の共生を目指した地域猫活動が進む一方で、殺処分数は減少しているものの、桂川河川敷における野犬に係る課題などもあることから、府市協調による動物愛護事業の取組について調査する。

### 【調査内容】

京都動物愛護センターは、平成27年に京都府・京都市が共同で運営する施設として開設され、しつけ方教室などの動物愛護事業の実施、収容動物の適切な管理、譲渡事業の推進、動物に関する幅広い情報発信などを担っている。

府民・市民との協働による施設運営を目指し、計画的なボランティアスタッフの募集・養成を進めている。毎年、任期3年で30名程度を募集し、現在、100人程度のボランティアスタッフが登録され、動物舎の清掃や給餌などの管理業務のほか、機関誌の編集、来所者の案内業務などを担当している。

殺処分数ゼロを実現するには全ての犬・猫が譲渡される、又は収容される犬・猫がゼロになる必要があるが、収容される犬・猫の中には、事故などにより治療の見込みがない場合や、野犬として保護され攻撃性があつたり人になつきにくかったりと、実現には難しさもある。譲渡事業においては、適正飼養が可能な新たな飼い主への譲渡に努めることで殺処分の抑制に取り組んでいる。

また、飼い主のいない猫を捕獲し、不妊去勢手術を行い、地域猫として一代限りの命を全うさせるTNR活動「さくらねこ」の取組は、猫の繁殖を抑え、周辺地域の被害を防ぐなどの効果があるといわれており、地域住民、ボランティア、行政の三者協働により進められている。猫の苦情については減少傾向にあるものの、飼い猫に比較して地域猫の苦情が圧倒的に多く、地域猫への対応については、地域住民や自治会等との調整・協議が必要なことから、市町村による地域猫への不妊去勢手術費用への助成金制度等が創設されている状況があり、温暖で地域猫が住みやすい南部の市町村が現在のところ順次創設等を行っているとのことであった。

### 【主な質問事項】

- ・ 広報物やSNSなど広報に係る業務体制について
- ・ 西京区の支所における業務と今後のあり方について
- ・ 災害時におけるペットの特性に応じた同行避難について
- ・ 動物愛護に係る周知啓発の工夫について

など



調査事項を聴取



施設を視察